



QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW



ポールポジションを獲得した中須賀克行

中須賀克行がコースレコードを更新! Wポールを獲得!! タイトル争いの行方に注目の最終決戦!

ついに最終戦決戦を迎えた全日本ロードレース選手権。今年も戦いの終着の舞台となるのは、三重県・鈴鹿サーキット。事前テストがなかったこともあり、昨年に引き続き木曜日から特別スポーツ走行が設けられ、一日早いレースウィークの始まりとなった。

タイトル争いは、高橋巧が118ポイントでトップにつけ、2ポイント差で柳川明が、7ポイント差で中須賀克行が、11ポイント差で津田拓也が続いており、この中からチャンピオンが誕生することになる。

この4人のうちノーポイントを喫しているのは、中須賀のみ。今の全日本ロードレース選手権のポイントシステムでは、ノーポイントレースは、あまりにも大きな痛手となる。そのダメージを中須賀は、筑波ラウンドでマシントラブルが原因で受けている。そのダメージを挽回するためにSUGO、岡山と連勝し、再びタイトル争いに加わってきた。ディフェンディングチャンピオンとしての意地、そして勢いは、今のJSB1000クラスで一番あると言っても過言ではない。ノックアウト方式で行われた公式予選では、Q1、Q2共にトップタイムをマーク。レース1、レース2のダブルポールポジションを獲得した。Q2では、2分06秒226をたたき出した。「Q2でベストラップをマークした周は、スプーンカーブでインにうまくつけなかったのですが、その後で挽回できたと思ったのでレコード

が出ればいいなと思いましたが、予想以上にいいタイムを出すことができました。「韋駄天」と言われている秋吉選手のレコードを上回ることができて、うれしいですね。決勝は、とにかく2つとも勝つことがボクの仕事です」とキッパリ。前週にワイルドカード参戦したMotoGPからの乗り換えに初日、2日目と苦勞したが、予選で変更したセットがピタリとはまり見事にコースレコードを更新した。

ポイントリーダーの高橋は、レース1のグリッドが決まるQ1では、2分07秒113で4番手となったが、Q2で2分06秒661をマークして2番手タイムをたたき出した。「もう少しタイムを出したかったのですが、アベレージタイムは悪くないので、しっかり勝負したいです。鈴鹿は、1周が長いので、もし出遅れても挽回できるといいますし、とにかく勝ちたいです」と勝ってチャンピオンを決めたいと語る。

Q1で2番手、Q2で3番手と両レースでフロントロウを獲得したのが津田だ。鈴鹿8耐では、名門ヨシムラのエースとして活躍するほどライダーとして成長を見せている。「8耐のときはコンディションが違うのでデータは、使えないですが、チームのおかげで6秒台にも入りましたし、いいフィーリングです。序盤は、6秒台に入るといいますし、15週のレースでは様子を見るほどノンビリしていられないので、最初からペースを上げて

いきたいです」と虎視眈々と勝利を狙っている。

復帰戦にもかかわらず初日にトップタイムをマークした秋吉耕佑は、Q1で3番手、Q2で4番手と、今ひとつ本調子ではないようだ。

「筑波、岡山と転倒してケガをしているのですが、今回もマシンのパワーバランスがうまく合っていない状態ですね。難しいレースになりそうです」と秋吉。今回は、表彰台に上がればと語るが、鈴鹿では高い勝率を誇っているだけに、宇宙人らしい速さを見せる可能性もあるだろう。

そして2ポイント差で逆転タイトルを狙う柳川は、Q1が5番手、Q2で6番手とセカンドロウからスタートする。「着実に進歩している状態ですし、2分7秒台では回れるようになっていますが、トップ争いは、2分6秒台に入るはず。とにかく15周を2回、キッチリ走り切ります」とコメント。チームメイトの渡辺一樹も好調なだけに、決勝でカワサキ旋風を巻き起こしたいところだろう。

レースは、ゼッケン1をつける中須賀を中心に、高橋、津田、秋吉がどう絡むかが注目される。トップ争いのペース次第では、柳川も加わることはできるはず。爆発的なトップスピードを見せるカワサキパワーでライバルを圧倒するか!? そしてタイトル争いの行方は!? 運命の最終決戦は、間もなくスタートする。

(佐藤寿宏)

ポールポジション[Race 1]: 2'06.485 [Race 2]: 2'06.226

#1 中須賀克行/ヤマハYSPLレーシングチーム



『MotoGPからの乗り換えは大変でしたが、土曜日の朝にセッティングを少しアジャストしたら、それがうまくハマりました。モディファイされたタイヤも、かなりマッチングしてきたので、タイヤの力を借りて渾身のアタックで、韋駄天の秋吉(耕佑)さんが持つ記録を破ることができました。バイク自体は去年から大きく変わってはいないので、記録を塗り替えられたことは、もちろん、タイヤの進化もありますが、自分自身も大きく進化できている、という証明になったと思います。鈴鹿のフルコースではまだ勝ったことがないので、ここで勝ちたいという気持ちは強いです。決勝は天候が気になりますが、自分のやるべきことはひとつなので、この勢いそのままレースとも制してチャンピオンを、もぎ取れるように頑張りたいと思います』



#12津田拓也はレース1が2番手、レース2が3番手からスタート



ポイントリーダーの高橋巧。何としてもタイトルを手中にしたい

Pos	No	Rider	Team	Time
1	1	中須賀 克行	ヤマハYSPLレーシングチーム	2'06.485
2	12	津田 拓也	ヨシムラスズキレーシングチーム	2'06.578
3	4	秋吉 耕佑	F.C.C.TSR Honda	2'06.640
4	634	高橋 巧	MuSASHI RT ハルク・プロ	2'07.113
5	87	柳川 明	TEAM GREEN	2'07.306
6	50	渡辺 一樹	TEAM GREEN	2'07.891
7	17	安田 毅史	Honda鈴鹿レーシングチーム	2'08.591
8	39	酒井 大作	Team Motorrad39	2'08.663
9	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	2'08.756
10	104	山口 辰也	TOHO Racing with MORIWAKI	2'08.829
11	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY	2'08.922
12	01	出口 修	エヴァRT初号機シナジーフォースTRICKSTAR	2'09.421
13	33	藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	2'09.563
14	132	寺本 幸司	MotoMap SUPPLY	2'10.913
15	11	東村 伊佐三	RS-ITOH&ASIA	2'11.039
16	76	小島 一浩	Honda熊本レーシング	2'11.171
17	16	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	2'11.431
18	30	西中 綱	HondaDREAMRT和歌山	2'11.924
19	22	清水 郁巳	ホンダドリーム高崎B'WISE R.T	2'11.985
20	35	田村 武士	テイクアップ OIRF	2'12.245
21	21	久保山 正朗	Honda浜友会浜松エスカルゴ	2'12.696
22	57	北口 浩二	Honda鈴鹿レーシングチーム	2'12.808
23	18	中村 知雅	チームトモサ	2'13.221
24	68	清水 祐生	浜松チームタイタン	2'13.351
25	23	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	2'13.523
26	36	鈴木 大五郎	BKRS☆ファクトリーヒーロ	2'13.597
27	770	水澤 保	山科カワサキKENRACING	2'13.708
28	6	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	2'13.762
29	62	塩原 弘志	S・SUPPLY&おやし組	2'14.640
30	19	戸田 隆	F☆S☆H☆マル食堂GTRIBE	2'15.372
31	83	中沢 孝之	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	2'16.473
32	74	北折 淳	Honda緑陽会熊本レーシング	2'16.522
33	73	大橋 靖洋	Honda緑陽会熊本レーシング	2'16.846
以上予選通過車両:				
34	70	佐藤 慎一郎	佐藤家レーシング	2'19.332

予選通過基準タイム(110%) 2'19.223

★JSB1000[Race1]のスターティンググリッドは、ノックアウト公式予選Q1にて記録されたタイム順となります。

中富伸一がニューレコードでポールポジション!!
「必ず勝ってシーズンを締めくくりたい」



気温17度、路面温度は19度とやや肌寒い中で始まった最初の公式予選ST600クラス。セッション開始早々は太崎誠之が2分12秒502でトップに立ったが、中富伸一がその後すぐにコースレコードを更新する12秒032をマーク、トップを奪った。3番手はポイントリーダーの渡辺一馬で12秒570、4番手に國川浩道が13秒033と続く。渡辺はすぐに12秒263に上げて2番手に浮上した。

セッション終盤には岩崎哲朗が12秒747へとタイムを更新し、4番手に浮上する。しかし結局、中富が2周目にマークしたトップタイムを上回るライダーは現れず、中富が今季初のポールポジションを獲得した。2番手以降は渡辺、太崎、岩崎、國川、井筒仁康、伊藤勇樹、小林龍太。初タイトルを狙う渡辺と直接対決となる横江竜司は13秒688で9番手スタートとなった。



ポールポジション: 2分12秒032 R
#2 中富伸一/HitMAN RC甲子園ヤマハ

『レースウイークに入って順調にきているので、レースもいい形で終わればいいですね。車両はアジア選手権に参戦したときのセッティングのままで、タイヤの選択を確認しただけです。どのタイヤでもタイムは2分12秒台を出せているので、ハード目でもいいかという判断です。先行逃げ切りが理想ですが、逃げるのは、難しいと思うのでライバルとの競り合いを、どう戦うかが課題です。今回は、これまでタイヤ開発に努力を重ねてきた結果を残したいです。ポールポジションは、2005年の開幕戦以来ですね。優勝からも、しばらく遠ざかっているので、今年こそ勝って終わるように頑張りたいです。チャンピオンの可能性もゼロではないので、諦めずに自分の可能性にかけたいと思っています』

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

終盤のアタック合戦を制した野左根航太がP.P. 「自分に負けない強い気持ちでレースに臨みたい」



ランキングトップの野左根航太が135、生形秀之が127と8ポイント差で迎えたJ-GP2クラス。予選でも二人と共に、浦本修充、デチャ・クライサー、井筒仁康、岩田悟、長島哲太、中本翔、高橋英倫、大木崇行らが次々とタイムを塗り替える激しいアタックが予選序盤から見られた。

野左根はセッション中盤にその時点でトップだったデチャの2分12秒446を上回る11秒918でトップに立つ。その後浦本、岩田が競り合うようにして11秒台に入れてそれぞれトップ、2番手を奪い、浦本はさらに11秒691までタイムアップ。前後ニュータイヤに替えた野左根ほか、上位陣も残り5分頃に最後のアタックを開始、続々とタイムアップしていく中で、野左根が11秒377で再びトップを奪う。次いで生形が11秒466、浦本、デチャ11秒777、井筒11秒789、岩田11秒894とここまでが11秒台でセカンドロウまでを占めることになった。



ポールポジション：2分11秒377

#31 野左根航太／ウェビックチームノリックヤマハ

『木曜日の走行は、先週参戦したMoto2クラスからの乗り換えに苦戦して、あまり思うようにはいかなかったのですが、金曜日から徐々に調子を取り戻して、予選に合わせる事ができました。タイムを出した周は、3秒くらい先にデチャ選手がいて、少しずつ差が詰まっていくのが分かったので、いいタイムが出ていると思っていました。予想以上のタイムが出せたのでうれしいです。初めてポイントリーダーで迎える最終戦なので、負気になってしまう部分もあるかも知れませんが、なるべくリラックスすることを心がけたいです。決勝は混戦になると思いますが、優勝してチャンピオンを決めたいです』

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

山田誓己、ニューレコードでポールポジション!! 「守りに入らず勝ってタイトルを決める」



セッション開始早々に2分18秒011でトップに立った國峰琢磨が、3周目のラップで16秒639のニューレコードをマークしトップをキープする。その後國峰はスリップダウンし一旦ピットに戻ってしまう。2番手の山田誓己は17秒6、宇井陽一が18秒9と続く。セッション中盤以降は上位陣が続々とタイムアップし、モニターの順位も激しく入れ替わる。しかし、國峰のトップは変わらない。

その中で15分ほどを残して再びコースインした山田は、当初クリアラップを取れなかったが、残り5分となった頃アタックを開始、16秒178をマークして自身のレコードをブレイクすると共に、このタイムでポールポジションを獲得した。2番手は國峰、3番手には最後のアタックで17秒413をマークした宇井、4番手以降は仲城英幸が18秒212、鳥羽海渡がチェッカーの周に18秒485、大久保光が18秒677とここまでがセカンドロウとなった。



ポールポジション：2分16秒178 R

#3 山田誓己／TEAM PLUSONE & ENDURANCE

『ワイルドカードで参戦した日本グランプリではタイヤメーカーが違ったので、タイヤに慣れるのに時間を費やしてしまい、なかなかタイムが上がりませんでした。金曜日の2本目の走行でセットアップが決まり、レコードに近いタイムを出す事ができました。今回はチャンピオンのかかった大事なレースですが、守りに入らず、毎ラップ全力で走ります。チャンピオン取ることも重要だと思っていますが、ボクが取りたいのは世界のタイトル。全日本は通過点だと思っているので、結果を求めていきたいと思っています』



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走34台
●[Race2]決勝スタート/15:20(15周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	ヤマハYSPレーシングチーム	YZF-R1	R 2'06.226
2	634	高橋 巧	MuSASHI RT ハルク・プロ	CBR1000RR	2'06.661
3	12	津田 拓也	ヨシムラスキレーシングチーム	GSX-R1000L3	2'06.817
4	4	秋吉 耕佑	F.C.C.TSR Honda	CBR1000RR	2'06.947
5	50	渡辺 一樹	TEAM GREEN	ZX-10R	2'07.233
6	87	柳川 明	TEAM GREEN	ZX-10R	2'07.767
7	104	山口 辰也	TOHO Racing with MORIWAKI	CBR1000RR	2'08.111
8	39	酒井 大作	Team Motorrad39	S1000RR	2'08.587
9	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	2'09.693
10	17	安田 毅史	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR1000RR	
以上 Q2にて決定:					
11	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY	GSX-R1000L3	2'08.922
12	01	出口 修	エヴァRT初号機シナジーフォースTRICKSTAR	ZX-10R	2'09.421
13	33	藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING・YAMAHA	YZF-R1	2'09.563
14	132	寺本 幸司	MotoMap SUPPLY	GSX-R1000L3	2'10.913
15	11	東村 伊佐三	RS-ITOH&ASIA	ZX-10R	2'11.039
16	76	小島 一浩	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	2'11.171
17	16	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	2'11.431
18	30	西中 綱	HondaDREAMRT和歌山	CBR1000RR	2'11.924
19	22	清水 郁巳	ホンダドリーム高崎B'WISE R.T	CBR1000RR	2'11.985
20	35	田村 武士	テイクアップ OIRF	GSX-R1000L2	2'12.245
21	21	久保山 正朗	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR1000RR	2'12.696
22	57	北口 浩二	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR1000RR	2'12.808
23	18	中村 知雅	チーム トモサ	CBR1001RR	2'12.221
24	68	清水 祐生	浜松チームタイタン	GSX-R1000	2'13.351
25	23	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	2'13.523
26	36	鈴木 大五郎	BKRS☆ファクトリーヒロ	GSX-R1000	2'13.597
27	770	水澤 保	山科カワサキKENRACING	ZX-10R	2'13.708
28	6	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1199PanigaleR	2'13.762
29	62	塩原 弘志	S・SUPPLY&おやじ組	GSX-R1000	2'14.640
30	19	戸田 隆	F☆Sレノマル堂GTRIBE	S1000RR	2'15.372
31	83	中沢 孝之	DOG FIGHT RACING・YAMAHA	YZF-R1	2'16.473
32	74	北折 淳	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR	2'16.522
33	73	大橋 靖洋	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR	2'16.846
以上予選通過車両:					
34	70	佐藤 慎一郎	佐藤家レーシング	GSX-R1000K9	2'19.332

*Rマークの車は、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 2'06.401

★JSB1000[Race2]のスターティンググリッドは、ノックアウト予選Q2/トップ10チャレンジまで終了したタイム順となります。



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走34台
●決勝スタート/10:15(12周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	2	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	R 2'12.032
2	6	渡辺 一馬	KoharaRacing	CBR600RR	2'12.263
3	12	大崎 誠之	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	2'12.502
4	14	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	2'12.747
5	16	國川 浩道	赤い輪車レーシングチーム	CBR600RR	2'13.033
6	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	2'13.341
7	76	伊藤 勇樹	PETORONAS・HLYM	YZF-R6	2'13.511
8	8	小林 龍太	NEXTSTAGE	CBR600RR	2'13.685
9	11	横江 竜司	RT 森のくまさん佐藤塾台	YZF-R6	2'13.688
10	71	小山 知良	CLUB PLUSONE with T.Pro	CBR600RR	2'14.025
11	17	西嶋 修	SPA直入インストラクターズ	ZX-6R	2'14.133
12	634	亀谷 長純	MuSASHI RT ハルク・プロ	CBR600RR	2'14.334
13	24	日浦 大治朗	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	2'14.468
14	83	宮崎 佳毅	TOHO RACING CLUB	CBR600RR	2'14.541
15	55	瀧美 心	テルル&EM★KoharaRT	CBR600RR	2'14.605
16	78	大田 雅裕	B-SQUARE racing	ZX-6R	2'14.665
17	9	稲垣 誠	AKENO SPEED・MIC	YZF-R6	2'14.758
18	23	近藤 湧也	GBSレーシング	YZF-R6	2'14.881
19	21	篠崎 佐助	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	2'15.530
20	18	中山 真太郎	TEAMしんたろうwithKRT	CBR600RR	2'15.752
21	45	高橋 颯	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	2'16.196
22	57	奥野 翼	PITCREW&松戸FLASH	ZX-6R	2'16.264
23	48	中本 貴也	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	2'16.869
24	54	嶋川 直宏	D:REX	YZF-R6	2'17.031
25	30	豊田 浩史	D:REX	DAYTONA675R	2'17.066
26	26	中津原 尚宏	研友会栃木PGR+ATS	CBR600RR	2'17.305
27	146	瀬崎 恭広	カメイレーシング&Teamまんだい	ZX-6R	2'17.463
28	50	松川 泰宏	MOTO BUM + SAI	CBR600RR	2'17.636
29	42	松本 正幸	Teamマキユリー&モトスト	ZX-6R	2'17.976
30	46	小倉 章太郎	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	2'18.458
31	91	中山 智博	Team91&孫悟空	ZX-6R	2'18.880
32	79	蒲谷 朋大	SPA直入インストラクターズ	ZX-6R	2'18.904
33	74	山内 宏之	立秋モーターズ&RC甲子園	YZF-R6	2'19.089
34	37	阿久津 晃輝	SS'm+FRS+HouYou	YZF-R6	2'19.953

以上予選通過車両:
*Rマークの車は、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 2'12.515
予選通過基準タイム (110%) 2'25.235



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走21台
●決勝スタート/14:15(15周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	31	野左根 航汰	ウェビック チームノリック ヤマハ	YZW-N6	2'11.377
2	2	生形 秀之	エスバルスドリームレーシング	MFD6	2'11.446
3	634	浦本 修充	MuSASHI RT ハルク・プロ	HP6	2'11.691
4	30	Decha KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	2'11.777
5	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	2'11.789
6	34	岩田 悟	CLUB PLUSONE	HP6	2'11.894
7	45	長島 哲太	テルル&EM★KoharaRT	TSR TSR2	2'12.494
8	37	中本 翔	レーシングチーム Out Run	YZF-R6	2'12.503
9	51	高橋 英倫	PITCREW&松戸FLASH	MZX-6R	2'12.798
10	7	大木 崇行	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	2'12.842
11	392	津田 一磨	ミクニ テリーアンドカー	GSX-R600	2'13.535
12	11	星野 知也	SYNCEGE 4413 Racing	CBR600RR HP6	2'13.609
13	22	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR2	2'14.954
14	60	藤井 謙汰	F.C.C.TSR Honda	TSR2	2'15.329
15	19	相馬 利胤	TT45	MD600	2'15.593
16	16	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	2'17.644
17	53	森 健祐	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR600RR	2'17.845
18	13	赤間 清	CLUB HARC-PRO	HP6	2'18.700
19	15	小口 理	ALLMAN & OW racing	YZF-R6	2'19.237
20	52	Hangdae CHO	PITCREW&TWOHEEL KOREA	MZX-6R	2'19.459
21	79	朝比奈 正	アサヒナレーシング	Z600	2'19.604

以上予選通過車両:
予選通過基準タイム (110%) 2'24.514



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走34台
●決勝スタート/12:20(12周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	3		山田 誓己	TEAM PLUSONE & ENDURANCE	NSF250R	R 2'16.178
2	55	Y	國峰 琢磨	Projectu7C HARC	TSR3	2'16.639
3	41		宇井 陽一	41Planning.IODARacingJapan	IODA	2'17.413
4	4		仲城 英幸	Projectu7C HARC	NSF250R	2'18.212
5	67	Y	鳥羽 海渡	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	2'18.485
6	78		大久保 光	HotRacing	NSF250	2'18.677
7	13	Y	佐野 優人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	2'18.768
8	25		小室 旭	テルル&EM★KoharaRT	NSF250R	2'18.969
9	9		菊池 寛幸	KoharaRacing	NSF250R	2'19.046
10	88	Y	水野 涼	CLUB HARC-PRO.	NSF250	2'19.140
11	8	Y	亀井 雄大	18 GARAGE RACING TEAM	NSF250R	2'19.470
12	33	Y	山元 聖	Projectu7C HARC	NSF250R	2'19.592
13	26		高杉 奈緒子	モトバムwithヒボボタマ	NSF250R	2'19.754
14	14	Y	長尾 健吾	TEAMけんけんwithアポロ	NSF250R	2'19.972
15	22		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブRT	PRCS PRCS3	2'20.121
16	40	Y	中山 翔太	TEAM TECHNICA	NSF250R	2'20.159
17	34	Y	関野 海斗	Projectu7C HARC	NSF250R	2'20.188
18	18		葛西 雅迪	タニツ&speed heart YERC	NSF250R	2'20.198
19	65		Troy GUENTHER	チームヨシハル&K1Racing	NSF250	2'20.321
20	32	Y	北見 剣	ウィダー チームアイファクトリー	NSF250R	2'20.373
21	24		古市 右京	TEAM ASPIRATION	NSF250R	2'20.606
22	31		岡崎 静夏	KoharaRacing	NSF250R	2'20.947
23	38		山本 恭裕	広島カジタRacing&LRC	NSF250R	2'21.177
24	60		川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA&バックヤードガレージ	NSF250R	2'21.190
25	21		大西 隼	Projectu7C HARC	NSF250R	2'21.311
26	75		作本 輝介	Club PARIS RSC	NSF250	2'21.519
27	29		滝田 農央	ウィダー チーム アイファクトリー	NSF250R	2'21.556
28	37		石崎 司也	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	2'21.581
29	46	Y	岩戸 亮介	Club PARIS RSC	NSF250R	2'21.795
30	93		赤澤 隆生	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	2'22.247
31	28		三好 菜摘	オールスターモーターズスポーツ	NSF250R	2'23.139
32	35	Y	吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	NSF250R	2'23.182
33	43		畑中 要	FTR・タイヤナビ・遠藤住宅機	NSF250R	2'23.183
34	50		野澤 秀典	ノザワレーシングF&MoA	NSF250R	2'26.148

以上予選通過車両:
◎ YはYouthクラスを示す。
*Rマークの車は、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 2'16.858
予選通過基準タイム (110%) 2'29.795

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!

2013年シーズンも全日本ロードレース選手権はシリーズ全戦をレース開催8日後に「BS12 TwelIV(トゥエルビ)」で完全無料放送されます。現場ではカバーできなかったシーンや迫力のバトルをあらためてお楽しみください!!

■放映スケジュール

最終戦MFJ-GP鈴鹿 11月11日(月) 20:00~20:54
2013総集編 11月25日(月) 21:00~21:54

ますます充実するインターネット動画!!



コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信! スマホ対応です。



YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!



TV収録用高画質映像を決勝レース終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>